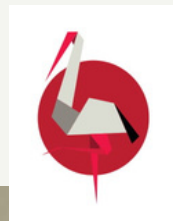


社会福祉法人 福田会 週次報告書



2022年6月14日 / Vol. 005



6月6日(月)～6月12日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

避難所引っ越しの手伝い

レストランプロジェクト



レストランプロジェクト参加店オーナー(左)
にヒアリングを行う福田会スタッフ

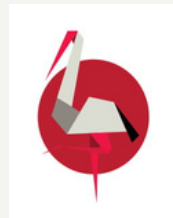
ご支援総額

2022年6月9日までの寄付総額

85,316,733 円

6/6(月)～6/12(日)の期間中の寄附金使用額

58884.38 zł(約170万円)



活動内容

クラクフ中央駅構内カリタス支援所への支援物資提供

福田会ではクラクフ中央駅構内2か所の避難所(支援所)に支援物資を提供しており、プラットフォーム4番にある避難所が閉鎖・移転となったため、今週はカリタスが運営する支援所のみ物資の提供を実施。

大人用おむつ・赤ちゃん用品・石鹸・歯磨き粉等を購入。

避難所引っ越しの手伝い

クラクフ中央駅構内 プラットフォーム4番の避難所が閉鎖されたため、引っ越し作業の手伝い。

新しい避難所は駅から離れた距離に位置するため、これまでのような短期滞在者向けの支援からは目的が変更になる事が見込まれる。

レストランプロジェクト

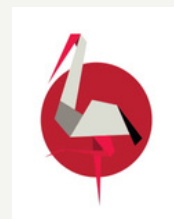
参加店4店舗を合わせて約1660食を提供。

各店舗にヒアリングに行き、クーポンの利用状況等についての確認と相談を行った。

食事のセットはスープ・メインで、内容は店舗側が決定しているが、1店舗(BENTO)では予算内でメニューを選択することが出来るため、ウクライナの都市名を冠したBENTO・キエフ(チキンカツ)、BENTO・ウクライナ(カツレツ)が人気だという。

また、一部店舗では「食材購入に人手が不足している」と相談があり、福田会スタッフが買い出しに同行した。





現地の動向

ポーランドに流入したウクライナ避難民の数は約397万人とされている。(6月11日時点)

クラクフでは各地の支援所が順次閉鎖されているため、今も支援活動を行っている避難所では、更なる物資の提供を呼び掛けている。

このようにポーランド国内では政府・自治体運営のウクライナ支援策が続々と打ち切られているため、帰国の選択を迫られている避難民も少なくない。

帰国も出来ず、就業も難しい避難民は、厳しい環境に立たされている。



日曜日の市内中心は大勢の人で賑わっていた。

以前は街中からウクライナ語が聞こえていたが、今は観光客が増え、英語を耳にする機会の方が増えた。

織物会館と中央広場(左) と
フロリアンスカ通り(右)

